

ふくしま

再生 短信

カタクリツアー 2019



【写真上】今年のカタクリはいつもの可憐さに加えた力強さ

2019年4月21日晴天の下、午前10時半カタクリツアーは佐須を出発。総合プロデュース兼ガイドは小原壮二さん、ツアーは農泊事業に向けて入念に企画され、佐須地区の方々を含め参加は総勢13名。ツアーの導入は飯館村指定天然記念物・二枚橋のみずばしょうの群生地である（写真1）。

水芭蕉の白い苞に優しく包まれた花茎の姿が古来より人びとに愛されてきた。秋櫻子に「山めぐる夜明の風や水芭蕉」の句がある。二枚橋から小宮の大久保金一農園・マキバノハナゾノへと移動、金一さんご自慢の水仙のお花畑の歓迎を受

ける（写真2）。けんちん汁、オニギリ、村のひとからの差し入れの漬物で腹ごしらえした後カタクリの里へ。今年のカタクリは過去最高のパフォーマンス（写真上、写真3）。里の案内人は急用で不在の金一さんに代わって田尾陽一さんが担当（写真4）。ツアーの後ハナゾノを俯瞰する山の中腹でパチリ

（写真5）、カタクリの甘い想いを胸に全員家路に着いた。（文責&撮影・若林一平）



ふくしま 再生 短信

虎 捕 の 里

5/12 風と土の家 開所式



【写真】1. 快晴下の施設全景。2. いいたて美女軍団到着・正面玄関前。3. 地域活性化協議会会長・菅野宗夫さん

挨拶、右は副会長・「風と土の家」運営準備委員長・佐藤公一さん。4. 英工務店社長高橋英明さんに感謝状。5. 餅つき大会。

6. 恩師・森本晶子さんの前で熱演する元高校生フォークシンガー。

2019年5月12日午前10時、飯館村佐須行政区地域活性化協議会（会長、菅野宗夫さん）が運営する「虎捕の里・風と土の家」の開所式が、「家」の施設と隣接する佐須公民館、旧佐須小学校を会場に盛大に挙行された。式は協議会副会長・佐藤公一さんの司会で進行。冒頭会長の宗夫さん「この施設の建設にあたり芳賀沼製作所さん、地元の英工務店さん始め多くの皆様のお世話になりました。真野川の源流の湧き水の里で、風と土の恵みが人と人の豊かな交流を齎してくれると信じます」、協議会事務局局長・田尾陽一さん「仮設で使われたログハウスには

【背景写真】炸裂する「嫁パワー」・復活した虎捕太鼓。避難した皆さんの苦勞とふくしま再生の会の医療ケアチームの思いが刻まれています」。菅野典雄村長の祝電披露、菅野新一村会議長の挨拶。英工務店さん、長谷川電気さん、荒木屋さん、地主・菅野太さんへの感謝状贈呈。協議会顧問・菅野永徳さんの音頭で乾杯。館内見学のあと芋煮とつきたてのお餅のぜんざいが振舞われた。虎捕太鼓の「奉納」と元若者のフォークソングが花を添えた。運営準備委員長公一さん「若い人、子供達の帰村が進んでいません、交流人口増が若い人達を元気づけてくれることを願っています」。（文責&撮影・若林一平）

2019 6 / 29 第 53 号

ふくしま

再生 短信

5/26第2回相馬復興サイクリング

駆ける復興サイクル



【写真上】風と土の家の前を駆けぬけるサイクリスト。【左上から】1.「地元民の方々のアツい応援は、参加者たちに元気をくれた」(<https://www.cyclesports.jp/>より転載)。2.佐須滑宗夫田圃の田植。3.佐須峠を駆け降りる。4.今年も大久保金一さんの田植手ほどき。5.早苗饗の宗夫さん。

りの里風と土の家」の前で村の人と再生の会のメンバーが「フレーフレー」と声をかける、「ありがとう」と大きな声が返ってくる。飯館村を通るロングコース(105km)に288名が参加、熱い熱いエールの交換が村の中で行われた。(文責と撮影(1を除く):若林一平)

2019年5月26日、8年目を迎えた佐須滑宗夫田圃の田植の日、第2回相馬復興サイクリング(主催:同実行委員会)のサイクリスト達が朝9時前から佐須峠を降り草野、大倉を経て飯館村を駆けぬけた。農泊施設「虎捕



ふくしま

再生 短信

7/28-29 埼玉県立鴻巣高校
輝け高校生ボランティア

【写真上】阿部農園のひまわり畑散策【数字順に】阿部農園ハウスでとれたて胡瓜をいただく。宗夫農園の牧場に全員集合、ぶどう園へ。ぶどう園草取り。小原さんの指導、測定小屋で農産物放射能測定実習。佐野さんの指導。山林の土壌試料採取実習。再生の会事務所前、宗夫さんにお礼とお別れ。

2019年7月28、29の両日埼玉県立鴻巣高校のボランティア46名が3人の先生に引率されて来村。初日佐須老人クラブを訪問、校歌斉唱挨拶のあと田尾さんの村内案内に続き宗夫さんの講義。班毎に分散して農家訪問、記者は阿部勝男さん・セツ子さん夫婦の農園に同行。福島の高校に通学する孫の高1・和翔（かずと）さんも笑顔で出迎え、阿部さん夫妻は沢山の「孫たち」に囲まれて交流のひとつを

過ごした。2日目はぶどう園の草取り、初日の農家訪問で採取した野菜の放射能測定、東大農学部にて測定を依頼する田圃・山林等の土壌試料採取、を班毎に実施体験した。今年で3年目を迎えた飯舘村のボランティア、この間全体プロデュースに奮闘してきた鴻巣高校教諭・金澤みなみさん「裾野が確実に広がってきたことがうれしいです、来年も再生の会の皆様、よろしく願います」。 （文責&撮影・若林一平）

2019 9 / 3 第 5 5 号

ふくしま 再生 短信

2019 / 8 / 6 高校生ボランティアを迎えて



＊ までのいの夏 ＊

2019年8月6日午前11時盛夏の最中、東大農学部サークルまでのい（代表・齋藤富子さん）は、前週飯館村を訪ねた埼玉県立高校から3名の高校生を迎えた。

担当教諭の金澤みなみさんに引率された新行内さん、井口さん、榮さん、の3人。最初に齋藤さんから8年前「動物や植物と共存してきた感謝の生活が原発事故で奪われた」という菅野千恵子さんの言葉の迫力が心を打ちましたとお話あり。伊井さんからこの日の取組みの全体像の説明を受け（写真1）、アイソトープ農学教育研究施設（略称RIセンター）の廣瀬農さんの案内で構内を施設に移動（写真2）。全員白衣に着替え靴も履き替えて放射線・

放射能測定について学ぶ（写真3）。核分裂と放射能についての講義も受け、測定室退出時には一人ずつ厳重に線量測定（写真4）。緊張の後の学食の味はまた格別（写真5）。午後は村で採取した土壌試料の処理法につき宇野さんが説明（写真6）。農家から頂いた野菜の試料づくりは土居さんが手ほどき（写真7）。生徒3人揃って神妙にバイアル詰め（写真8）。質量測定は高木さんの出番（写真9）。楽しいおやつの一時間もありません（写真10）。 齋藤さんから熱い熱いメッセージ「農学こそ復興の力、ぜひ農学徒を目指してください」（写真11、右端）。（文責&撮影・若林一平）